

都市再生整備計画

あわら^{おんせん}温泉地区

福井^{ふくい}県 あわら^し市

平成24年10月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福井県	市町村名	あわら市	地区名	あわら温泉地区	面積	210 ha
-------	-----	------	------	-----	---------	----	--------

計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標 大目標:北陸新幹線金沢開業及び舞鶴若狭自動車道全線開通を見据えた、新たな宿泊客を迎えるにふさわしい魅力づくり 目標1:まち歩きを楽しむためのせせらぎや石畳、照明施設、駐車場の整備 目標2:交通結節の利便性向上と気軽に温泉を楽しむための足湯施設の整備 目標3:温泉街のにぎわいを創り出す仕掛けづくり
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>福井県の最北端に位置するあわら市は、日本海や北潟湖、竹田川、緑豊かな山々等の自然にあふれた環境の中、広大な水田地帯や丘陵地畑作地帯は多彩な農産物を育み、優れた泉質を有するあわら温泉では人々が疲れを癒すなど、自然の恵みにあふれたところである。</p> <p>とりわけ「あわら温泉」は、明治16年の温泉発見以来130年にわたって、人々が集う福井県随一の温泉街として発展してきた。しかし、観光ニーズの多様化による旅行形態の変化や海外旅行への流出などにより、あわら温泉の宿泊者数は、平成3年の137万9,400人(宿泊施設数57)をピークに年々減少が続き、平成23年には70万4,487人(宿泊施設数30)と、ほぼ半減にまで低下している。</p> <p>このような中、平成26年度中には、北陸新幹線長野・金沢間が開業するほか、舞鶴若狭自動車道は小浜IC・敦賀JCT間の完成により全線が開通し、中国自動車道と北陸道が直結することとなる。さらに、平成24年6月29日には北陸新幹線金沢・敦賀間の工事着工が認可され、JR芦原温泉駅に併設して新幹線駅が設置されることとなった。これにより、平成37年度には首都圏や北関東、信越方面とあわら温泉がレールで結ばれることから、これまでの主体であった関西・中京方面に加え、中国・四国方面や関東・信越方面からも多くの観光客をもたらす交通基盤が、段階的に整うこととなった。</p> <p>本計画は、あわら温泉に回遊性を持たせることを目的としている。あわら温泉は、水田地帯の中で温泉が湧出したことから景観に乏しく、これを補うため各旅館が庭園美を競い、館内設備を充実させることにより、宿泊客を館内に囲い込むことに注力してきた。このため、旅館が記憶に残っても、あわら温泉自体は宿泊客の印象には残りにくいと指摘されている。</p> <p>これらの状況を踏まえ、本地区では北陸新幹線金沢開業による地域間競争に勝ち抜くとともに、舞鶴若狭自動車道の利用促進による積極的な誘客と相まって、宿泊観光客90万人(H23年比27.7%増)を目指した「にぎわいと回遊性のあるまちづくり」を実現するため、平成24年9月に観光団体や商工業団体、市民、学識経験者等による「あわら市観光まちづくり推進会議」を設置し、具体的な整備計画の策定を進めているところである。</p>
課題 大目標である「北陸新幹線金沢開業及び舞鶴若狭自動車道全線開通を見据えた、新たな宿泊客を迎えるにふさわしい魅力づくり」には次の点が課題として挙げられる。 課題1:宿泊客にまち歩きを動機付けさせるための修景づくり 課題2:あわら温泉が目的地とされるようなインバウンドのあるにぎわい拠点づくり 課題3:宿泊客の到着時はもとより、旅館チェックアウト以降の滞在時間を延長させるためのにぎわいづくり
将来ビジョン(中長期) にぎわいと回遊性のあるまちづくり ・あわら市総合振興計画後期計画では、「平成26年度の金沢開業に伴う経済波及効果をより多くあわら市に取り込むための施策を検討する。」ことを掲げている。 ・北陸新幹線開業に向けたにぎわいと回遊性のあるまちづくりアクションプランでは、「にぎわいと回遊性のあるまちづくり」を推進するため、あわら温泉街を重点的に整備すべきエリアと位置付けている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性		目標値		
			従前値	基準年度	目標年度		
あわら温泉宿泊者数	人/年	あわら温泉内旅館等の宿泊者数	704,487	23年	900,000	28年	
湯めぐり手形販売数	人/年	旅館の湯めぐりができる手形の販売数により、まち歩きを楽しむ人数を把握する。	3,002	23年度	5,000	28年度	
地区住民によるにぎわいづくり活動の頻度	回/年	地区内の住民が主体となったにぎわいづくり活動の回数	2	23年度	6	27年度	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>[整備方針1]: まち歩きを楽しむためのせせらぎや石畳、照明施設、ポケットパーク、駐車場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存市道における歩道未設置の区間において、観光客を誘導しやすい動線を整備することで、観光客のまち歩きによる温泉街のにぎわいを創出する。 ポケットパーク(花園)を整備することで、観光客の回遊性を高める。 まち歩きの安全性を阻害する路上駐車を排除するため、まちなかと郊外に駐車場を整備し、観光客の安全確保と景観の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> せせらぎと灯りに満ちた石畳の散策路(基幹事業:高質空間形成施設) まち歩きを安全に楽しむための石畳歩道や光る歩道(基幹事業:高質空間形成施設) 回遊性を高めるポケットパークや歩行空間の路上駐車を排除するための駐車場の整備
<p>[整備方針2]: 気軽に温泉を楽しむための足湯の整備と交通結節の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の広場において、それ自体が目的となる足湯を整備することで、観光客の滞在時間の伸長による地域経済の活性化を図る。 あわら温泉において集客数の多い宿泊施設付近に、新たなえちぜん鉄道の駅を新設することで、交通結節の利便性を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅の施設:えちぜん鉄道新駅(提案事業:地域創造支援事業) 温泉施設:北陸随一の足湯(提案事業:地域創造支援事業)
<p>[整備方針3]: にぎわいづくり活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップや講習会等を通じて、地区住民のもてなしの心を醸成するとともに、にぎわいのあるまちづくりに対する意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> にぎわいづくり活動推進事業(提案事業:住民参加によるまちづくり活動の推進)
<p>その他</p> <p>交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種事業を円滑に進め、目標に向け着実に成果を挙げるため、住民参加型のにぎわいづくり活動の機会に地区住民の積極的な参画を求める。 また、事業の進め方や目標達成に向かったの取り組みに対する考え方を共有することにより、地区住民と一体となった計画管理と事業推進を図る。</p>	

